あ

あ〔亜・〈阿・啞・〈痾・〈鴉〕→【字音語の造語成分】

ア〔略〕㈠アジア。「中央―」㈡アフリカ。「南ナ―」㈢（日本）アルプス。「南ナ―」㈣赤石山脈）連峰」 表記 ㈠は「亜」、㈡は〈阿〉とも書く。

あ①〔感〕①びっくりした時に出す、思わず発する声。「―君、ちょっと」②急に驚き（思い出し）などした時に出す、思わず発する声。㈠㈡とも「ああ」「あっ」とも言う。

ああ①〔感〕①肯定・承知の意を表わす言葉。「―、そうでしたか」②物事に感じた時に発する叫びに似た声。「感嘆・悲しみ・喜び・嘆きなどを表わす」 表記 ㈡は、漢文では「嗚〈呼」などと書く。

ああ⓪〔副〕①話し手・聞き手から離れて存在し、両者が共に認め得る事象や状態を指し示す様子。「あの人を見てごらん。―いう（＝あのような）〈アスタイルは珍しいね／なるほど―やって砂金を採るのか」②すでに話題になるなどして、話し手・聞き手が共に意識している事柄に含まれる事象や状態を指し示す様子。「お互いに年を取り、―（＝あのように）ころと言われても、今は無理だろう／田中さんは―見えても、意外に頑固だ／あの二人は―なる運命だったのかもしれないね」③「―…・こう？…」の形で）事柄の及ぶ範囲が多方面にわたり、的△がしぼれ（をしぼらせ）ない様子を表わす。「―だこうだと不満を並べる／―しようこうと言われても一度にできるわけがない／―言えばこう言うで、追及をのらりくらりとかわす」⇩こう・そう・どう・こそあど

運用 話し手自身が過去を回想したりする時、経験した出来事などに含まれる事象や状態を指し示す場合にも用いる。例、「ああいう時に―、もっと慎重に行動すべきだった」

アーカイブ③①〔archive〕①〔記録として保存すべき〕公文書。②公文書などの保管所。「アーカイブを〈圧縮して〉ひとまとめにしたもの。また、その技術。

アーキテクチャー④①〔architecture〕①建築物。建築術。建築学。②コンピューターシステム全体の設計思想・構成方式。

アークと**ろ**⓪【アーク灯】〔arc=弧・弓形〕電流を通じた二本の炭素棒の間に白熱光を出させる電灯。

アーケード①③〔arcade〕①（アーチ⑥）の有る通路。②〔商店街で〕日よけ・雨よけの屋根を付けた通路。

アーサかんど④【アーサ感度】〔ASA=American Standards Association〕アメリカ規格協会が定めたフィルムや印画紙の感光度の標準規格。現在はイソ感度が一般に用いられている。アサ感度③。⇩イソ感度

アース①＝⑥〔earth=大地〕①電気機器と地面との間に電路を作って、感電を避けたりすること（装置）。「接地」とも。②故障のために電路が大地につながること。

アーチ①〔arch=弓形〕①洋風建築の回廊などで、内側は壁などを、外側は石柱などを支えとして、弓形の天井に作ったもの。②骨組をスギ・ヒノキなどの葉で包み飾った門。「緑門」とも。③〔野球で〕ホームランの俗称。「―をかける〈＝ホームランを打つ〉／―攻勢・初―」③〔相撲〕は日本での特用。

アーチェリー①〔archery〕洋弓（を用いてするスポーツ）。

アーティスト①〔artist〕芸術家。「アーチスト」とも。「ロック―」海外―

アーティチョーク④〔artichoke〕夏、アザミに似た花をつける多年草。つぼみの一部を食用にする。地中海沿岸原産。和名、ちょうせんあざみ⑤。〔キク科〕

アート①〔art〕美術。芸術。―デザイナー⑤・モダン―

アート ディレクター⑤〔art director〕演劇の美術的効果や広告のデザインなどについての責任者。

アートペーパー④〔art paper〕コーティング加工した、厚手の印刷用紙。〔アート紙③〕とも。

アーバン〔造語〕〔urban〕近代都市としての。都会風の。「近未来型の―ライフ／―デザイン⑥・―リニューアル⑥〔都市再開発〕」

アーベント①〔ドAbend=夕方〕ある主題で特定の日の夜間に催される集会。「ベートーベン―〔＝…の夕べ〕」

アーム〔arm〕■①①〔建築で〕腕木。②腕のかっこうをした△物（部分。受話器・ミシンの本体の部分など。■〔造語〕腕。「―バッグ④・―チェア」

アームチェア④〔arm chair〕ひじ掛けの付いた、体を休めるのに適した作りのいす。「安楽いす」とも。「―にふんぞり返る」

アームホール④〔armhole〕洋服のそでつけ線。「そでつけ」とも。

アーメン⓪①③〔感〕〔ヘブライ āmēn=たしかに〕〔キリスト教で〕祈りの最後に唱える言葉。

アーモンド①③〔almond〕中央アジア原産の落葉高木。種子は平たくて、卵形。食用にするものと薬用にするものとがある。旧称、アメンド。「〈ラ科〕―チョコレート⑧・―ケーキ⑥」 ふそえ方 一株・一本・一粒

アール①〔フ are〕メートル法における面積の単位で、一辺が三〇メートルの正方形の面積（＝一〇〇平方メートル）。約三〇・二坪に当たる。〔記号 a〕⇩ヘクタール

アールエイチ いんし⑦【Rh因子】〔Rh=Macacus Rhesus（アカゲザルの学名）〕人間の血液の成分の一つ。Rh－（マイナス型）の母親がRh＋（プラス）型の胎児を妊娠した場合は、死産などを起こすことが有り、Rh－型の人がRh＋型の血液を繰り返し輸血された場合は、アレルギー症状を起こしたり赤血球が破壊されたりすることが有る。

アールエヌエー⑥【RNA】〔←ribonucleic acid〕リボ核酸。糖成分としてのリボースを含むものをいう。DNAの遺伝情報をもとに蛋白（タンパク）質の合成に関与する。

アールシー④【RC】〔←reinforced concrete〕鉄筋コンクリート。「―二階建て」

アールしてい④⑤【R指定】〔Rはrestricted＝制限の意〕〔公開されるべき映画で〕映倫が観覧を年齢により規制すること。対象となる年齢は、十五歳未満はR15＋、十八歳

あ

亜

■①…に次ぐ。「亜流・亜熱帯」②〔無機酸〕酸素が一原子だけ少ないこと。「亜硫酸」■〔略〕アジア（亜細亜）。⇩本文ア㈠

〈阿〉

■①こきげんをとる。「阿世・阿諛ュ」②〔本来は中国で〕人を親しみを呼ぶ時の称。〔日本の「お」に当たる〕「阿父？・阿Q」■〔略〕①アフリカ（阿弗利加）。⇩（本文）ア㈡②国。「阿州」

〈啞〉

ことばを話すことが出来ない（人）。「啞者・啞然・盲啞・聾ロ啞」

〈痾〉

治りにくい病気。「宿痾・病痾」

〈鴉〉

カラス。「鴉鷺ロ・晩鴉・群鴉・帰鴉」

** * は重要語，⓪①… はアクセント記号，品詞の指示の無いものは名詞および いわゆる連語。

アールデコ——あいかわら

未満はR18＋などと表示される。

アールデコ④〔art deco ← arts décoratifs＝装飾美術〕単純で直線的なアデイと大胆な色彩による芸術様式。一九一〇年代から三〇年代にかけてフランスで流行し、おもに服飾の分野に影響を与えた。

アールヌーボー④〔art nouveau＝新芸術〕植物をモチーフにした軽快な曲線と色彩の芸術様式。十九世紀末から二十世紀初めにかけてフランスを中心にヨーロッパで流行した。

あい（哀・埃・挨・愛・（隘・曖）→【字音語の造語成分】

アイ（造語）〔eye〕㊀目（の働きをするもの）。「一バンク・マジック一」㊁見て、ものの本質をつかむ能力。「カメラ一」㊂対象の切り取り方）がいいバッティング一」⑥

あいヒ【合】（造語）㊀Ⓐ…全体の様子（から受ける総合的印象）。「雲一・柄ラ一」⑩・色一・風ウ一」Ⓑその人とつき合っているうちに相互に感じとる好悪の感情。「情一・肌一・性ショ一」⑩その言葉によって表わさるる要素に、それと深く関連する他の要素がいくぶん付加されることを表わす。「意味一・義理一・気味一」⑩㊃何かをするのに適した、その時（場）の都合やそのものの程度。「潮チョ一・程一・頃ロ一・間マ一・場一・歩ブ一・割一」

あいヒ【相】（接頭）㊀〔名詞に冠して〕双方が互いに同じ関係に立つとよくえられることを表わす。「一打ち・一方・客一・先ピ一・弟子ジ一・乗り一・棒一・星一・持ち一・宿一・嫁一」㊁〔用言・副詞に冠して〕動作・状態の△積極性（狂重性）を表わす。「療養一・かなわず一・いましめる一」④一・済まぬ一・次ぐ一・半ばする一・成るべくは一・俟マ一・互いに一」①一・共に一」①一・近い一」②

＊あい①【愛】個人の立場や利害にとらわれず、広く身のまわりのものすべての存在価値を認め、最大限に尊重していきたいと願う、人間に本来備わっているとよくえられる心情。「親子の一（㊁子が親を慕い、親が子を自己の分身として慈しむ自然の気持）／動植物への一（㊁生あるものを順当に生育させようとする心）／自然への一（㊁一度失ったら再び取り返すことの出来ない自然をいたずらに損なわないように注意する心構え）／学問への一（㊁学問を価値あるものと認め、自分も何らかの寄与をしたいという願望）／芸術への一（㊁心を高めるものとしてすぐれた作品を鑑賞し、その作者としての芸術家を尊敬する気持）／人類一」③（㊁国や民族の異なる超え、だれとでも平等に接に接しようとする気持）・郷土一」③（㊁自分をはぐくんでくれた郷土を誇りに思い、郷土の発展に役立とうとする思い）・自己一」②（㊁自分という存在を無二の使命を持つ者と考え、自重自愛のかたわら研鑽サンに励む心情」→【造語成分】**一のけっしょう**①一⓪

一の結晶【一の結晶】（愛し合う）夫婦の間に生まれた子供。

一の巣【一の巣】愛し合っている男女が、二人だけの生活を営む家。

一のむち①①【一の鞭】愛するがために涙をこらえてとるきびしい態度や処置。

あい①①ヒ【間】㊀〔雅・西日本方言〕あいだ。㊁〔間狂言・間服〕の略。

あい①ヤ【藍】㊀畑に栽培する一年草。葉を発酵させて、青色の染料をとった。〔現在の藍色の染料は、ほとんどが人工合成〕「タデ科」㊁①←藍色の②濃く深い青色。

あい①ヒ〔諺諺〕①ヒ〔その場の人びとの気持が一様にうちとけた様子。「和気一」

あいあいがさ⑤アヒアヒ【相合傘】一本の傘を（相愛の）男女が一緒に差すこと。**表記**「相相傘」とも書く。

アイアン①〔iron＝鉄〕〔ゴルフで〕ボールを打つ部分を鉄で作ったクラブ。↔ウッド　かぞえ方一本

あいいく⓪【愛育】する（他サ）愛情を持って子供を育てること。

あいいれない①①⓪ヒ【相（容れない】両立しない。「豊かさと簡便は一概念だ」「（敵対関係にあったり対立感情が優先したり、協調出来ない）仲」

あいいん⓪【愛飲】する（他サ）〔その酒・牛乳・ジュースなどを〕日ごろから好んで飲むこと。「一者③

あいいん⓪ヒ【合印】書類を照らし合わせたしるしに押す印。〔合判ハン・あいじるし〕とも。

あいうち⓪ヒ【相打ち】㊀〔剣道などの試合で〕向こうが打つと同時に、こちらも打つこと。**表記**「相撃・相討」とも書く。

あいう・つ①①ヒ【相（搏つ】（自五）力を尽くして戦う。「いよいよ両雄一時がまいりました」**表記**「相打つ」とも書く。

アイエスオー⑤〔ISO〕〔← International Organization for Standardization〕国際標準化機構（㊁工業・農業関係などの規格の標準化を目的とする国際機関、また、そこで定めた規格）。「イソ・アイソ①」とも。

アイエスディーエヌ⑦【ISDN】〔← integrated services digital network＝サービスを統合した デジタル通信網〕電話・データ通信・ファクシミリなど、従来別別で ある各種の回線を統合して運用する、デジタル方式の通信網。

アイエスビーエヌ⑦【ISBN】〔← International Standard Book Number〕国際標準図書番号。書籍の流通業務合理化のため、図書につける国際的な番号。出版国・出版社・書名を示す数字からなる。

アイエッチちょうりき⑧ティ【IH調理器】〔← induction heating〕電磁誘導による加熱を利用した調理器。

アイエムエフ⑤【IMF】〔← International Monetary Fund〕国際通貨基金⑧⑨。国際為替の安定や平価切下げ競争の防止などのために設けた国際機関。

アイエルオー⑤【ILO】〔← International Labor Organization〕国際労働機関⑨⑩。各国の労働条件の改善を目的とする、国連の専門機関。

あいえん か①【愛煙家】たばこが好きな人。

あいえん きえん⑤ヒヒ【合縁奇縁】環境・性格の違う者同士が、ふとした事から親しくなり、あるいは夫婦となり親友となって一生変わらない。**表記**「合縁」は「相縁・愛縁」とも、「奇縁」は「機縁」とも書く。

あいおい①むむヒ【相生（い）】㊀同じ根から生え出（ているように見え）ること。「一の松」㊁〔「相老」に通じて〕夫婦が一緒に長生きすること。

アイオーシー⑤【IOC】〔← International Olympic Committee〕国際オリンピック委員会⑫。

あいか①【愛歌】恋しみの気持を述べた歌。

あいかぎ⓪ヒ【合鍵】本来の鍵とは別にその錠に合わせて作った鍵。　かぞえ方一本

あいかた⓪ヒ【相方】㊀Ⓐ漫才をする相棒。〔一方を「突っこみ⓪」、一方を「ぼけ②」という〕Ⓑ（くるわで）遊興の相手の遊女など。㊁Ⓐ〔歌舞伎キブで〕芝居のせりふの間に入れる三味線。Ⓑ能の謡の囃子方カタ。〔「敵（方）」とも書く。また、㊀Ⓑは多く、「（敵（方）」と書く。また、㊀Ⓑは多く、「（敵（方）」と書く。

あいがも⓪ヒ【（相鴨】食用。「一農法⑤　**表記**「合（鴨」とも書く。　かぞえ方一羽

あいかわらず⓪カハラヒ【相変（わらず】（副）予測される（目立った）変化が認められず、今までと同じような状態が続いている様子。〔強調形は「あいるる変わらず」〕

あいこ③ヒ【愛好】する（他サ）好ましいものとして、その物事を積極的に受け入れること。「平和を一する」音楽一家・切手一者⑥

あいこうしん③ヒ【愛校心】自分の△出た（在学する）学校の名を傷つけないように気をつけ、声価を高めるように努力する気持。

あいこく⓪【愛国】自分の生まれた国を誇りに思い、国のために尽くして行動すること。「一者④③一心④③

あいことな・る①③ヒ【相異（なる）】（自五）二つ（以上）の物事の間に、違いが認められる。「二点間の距離／主義・主張の一」二人政党それぞれ一分野」

あいことば③ヒ【合（い言葉】㊀〔夜襲・乱戦の時などに味方だということを知らせるために使う合図の言葉。㊁同志の結束を固め、仲間の主義・主張を自他に確認させるためのモット一。「都政刷新を一にする」

アイコン①〔icon＝肖像〕〔コンピューターで〕操作の対象であるファイル・ディスク・プログラムなどを、小さな絵で画面上に表示したもの。マウスを用いてこれを選択した後、操作内容をコンピューターに指示する。

アイコンタクト③〔eye contact〕言葉によらず意思を伝えるために、視線を合わせること。

あいさい①【愛妻】妻をかけがえのない伴侶ハンとして、末永く連れ添えることを願うこと。また、その妻。「一家⓪・一弁当⑤

＊＊あいさつ①ヒ【挨拶】する（自サ）〔「挨」は推す、「拶」は迫る意。もと、禅問答におけるやりとりを指した〕㊀（ばだ一する）人と会った時や別れる時に、社交的・儀礼的な（動作を伴った）言葉を交わすこと。また、その言葉。「一を交わす／毎朝おはようときちんと一する／初対面の一／時候の一／そう言われて一（＝返答）に困った」一語⓪㊁その場に居る人に対して、来訪の趣旨や開会・閉会を伝えたり儀礼として祝意や謝意を表わしたりすること。「新任の一をする（述べる）／何の一（＝断り）も無しに入り込む」一回⑤

用法これはご挨拶だねの形で、「なんというあきれた物言いようだ」と相手の失礼な応対を非難する気持で皮肉をこめて用いられる。

あいし①【哀史】△悲運（逆境）にしいたげられた人（びと）の一生や、一族の滅亡などに関する、涙を誘う物語。「平家滅亡の一／女工一④

あいじ①【愛児】かわいい（自分の）子供。

あいかん——**あいじ**

「一忙しそうだね（七十歳を過ぎても一元気だ）一の（＝変わりばえのしない）毎日です」**運用**（1）相手のことに用いる場合には、多くからかいの気味がこめられる。（2）手紙などで自分のことについて用いる丁寧表現は「相変わりますず」。例、「本年も相変わりますずご厚誼ギのほど願い上げます」

あいかん⓪【哀感】悲しみの感じ。物悲しい感じ。

あいかん⓪【哀歓】「悲しみと喜び」の意の漢語的表現。「一を共にする」人生の一」

あいがん⓪【哀願】する（他サ）泣かんばかりに弱状などを訴えて、何かを頼むこと。

あいがん⓪【愛玩】する（他サ）身近に置いて大切に取り扱い、慰みとすること。「一（＝ペットとして飼う）動物⑤」

あいき①**■**【愛機】その人の使いなれた飛行機・写真機など。**■**【愛器】その人の使いなれた楽器。

あいき③ヒ【《間着】あいふく。**表記**「合着」とも書く。　かぞえ方一着

あいきどう③ヒ【合気道】攻撃を加えて来る相手の動きを察知し、事前に徒手でそれを押さえる護身術。当て身技ザ・関節技（＝相手の肘ヒの関節を攻める技）などが有る。「合気術③」とも。

あいきゃく⓪ヒ【相客】㊀同じテーブルで飲食することに

あ

あい

あい

【哀】㊀かなしむ。かなしい。かなしみ。「哀調・悲哀」㊁あれむ。「哀憐ジン・哀憫ビン」㊂あわれっぽく。「哀願・哀訴」

【埃】■細かい土。ちり。ほこり。「塵ジ・埃」■（略）エジプト（埃及）。おす。せまる。「挨拶サツ」

【挨】㊀かけがえの無い、ものとして、大事に扱う。「愛児・愛妻・愛犬・愛車・溺デ愛・自愛」㊁有用のものとして、手放すまいとする。「愛惜・割愛」㊂自分の好みに合ったものとして、深い興味を持つ。「愛好・愛読」⇨（本文）あい【愛】

【愛】せまい。せまばまった地勢で、通りにくい。「隘路・狭隘」

【隘】薄暗い。ぼんやりしている。「曖昧・曖昧模糊コ」

【曖】

なった、見知らぬ者同士の客。〔狭義では、茶会での正客キャクク以外の客を指す〕⇨相席㊁同室に△泊まり（居）合わせる他人。

アイキュー③【IQ】〔← intelligence quotient〕知能指数。

あいきょう①ヒ【愛郷】自分の生まれた土地を誇りに思い、その良さが失われないように願うこと。「一心③

あいきょう③ヒ【愛（嬌】・キヤウ【愛（敬】㊀接する人に好感を与え、思わず話しかけたくなるような親しみを誘う物腰。「一をふりまく／一たっぷり」㊁〔多くこ〕一の形で〕客や同席者を喜ばせ楽しませるサービス。「こ」一（まで）に手品を一番お見せします」**運用**㊁は、人前で失敗した場合の照れ隠しとして、「今のはまんのご愛嬌だ」などとも用いられる。

一もの①【一者】接する人の心を和ませる何かを持っている人。「クラスの一」リスは森の一だ」

あいきょうげん③ヒ【《間狂言】一曲の能の中で、狂言方の役者が演じる役柄（演技）の総称。

あいぎん⓪【愛吟】する（他サ）好きな詩や歌（をうたうこと）。

あいくち⓪ヒ【合口】■つばの無い短刀。■話などがよくあうこと。〔間柄〕。「一がいい仲間」一が悪い〔＝苦手とする相手〕　かぞえ方一口（ピク）・一本

あいくるしい⑤【愛くるしい】〔形〕〔「くるしい」は、強意の接辞ア子供や仔犬イヌ・仔猫ネコ〕などの表情やちょっとしたしぐさが、いかにもあどけなくてかわいらしく感じられる様子だ。「一笑い顔」〔派一さ⑤④　**一げ**⑤⑥

あいけい⓪【愛敬】する（他サ）「敬愛」の意のやや古風な表現。「一の念を増す」

あいけん⓪【愛犬】犬の性情をよく知り、かわいがること。また、そのかわいがっている（飼い）犬。「一家⓪」

あいこ①【愛顧】は、目をかける意△上の（強い）立場にある人が、特定の部下や商人・芸人などに好意を持ち、その者が有利になるように計らうこと。〔普通、好意を受ける側が用い、一永年御一をいただきまして」

あいこ③⓪ヒと【相子】〔「こ」は「事」の意。「子」は借字〕どちらも優劣の無いこと。勝負無し。「これで一だ」

あいこ①【愛護】する（他サ）△いじめないで（よさを損なわずに）保護すること。「国語の一／動物一⑤」

あいご⓪ヒと【相碁】〔碁で〕腕前に優劣が無いこと。

アイシー——あいそ

アイシー③【IC】①[←integrated circuit] 集積回路。「—カード⑤」②[←Interchange] インタチェンジ。**—タグ**⑤【IC tag】記憶装置と無線通信の機能をもつタグ(付け札)。在庫管理や盗難防止などの目的で用いる。**—チップ**⑤【IC tip】クレジットカードなどに埋め込まれているIC。**—レコーダー**⑥【IC recorder】内蔵もしくは外付けのフラッシュメモリーを媒体とし、音声を録音・再生する装置。

アイシー ビー エム⑦【ICBM】[←intercontinental ballistic missile] 大陸間弾道弾。射程が約一万キロの、超長距離用戦略ミサイル。

アイシー ユー⑤【ICU】[←intensive care unit] 集中治療室。重態の患者や手術後の患者を収容し、心電図や血圧などの計器を使って、病状を常時看視し、不意の悪化状態に備える病室。「強化看護室⑥」とも。

アイシェード③[eyeshade] 光線をよけるために使う、目庇(マビ)。多く、プラスチック製。

あいしゃ⓪【愛車】日ごろ自分が運転している車(を大事にすること)。「—を駆って」 かぞえ方 車は一台

あいじゃく⓪[ゼヤク]【愛着】[←する(自サ)] 「あいちゃく」の古風

アイシャドー③[eye shadow] まぶたに塗る、青・灰色などの化粧品。「アイシャード③」とも。「ひきつい—」

あいしゅう⓪[シウ]【哀愁】せつない別れなどによっていだく、悲しみの感情。「—に満ちた歌声」

あいしゅう⓪[シウ]【愛執】愛情を断ち切れないこと。

あいじゅう⓪[ジウ]【哀(愁)】[←する(他サ)] 弱い立場にある者などに、思いやりの気持をいだいて接すること。「貧民を—する」

あいしょ①【愛書】①本(を集めること)が好きなこと。「—家⓪」②愛読書。

あいしょう⓪[シヤウ]【哀傷】[←する(他サ)] 人の死を悲しむこと。「—歌③」

あいしょう⓪【愛称】①親しい間柄同士で言う、姓(名前)の、一種の略称。例、山本さん(君)→山さん・山ちゃん。②正式の列車番号以外に個々の特急列車などにつける、親しみやすい名称。例、のぞみ・ひかり・とき。③あだな。例、女の子につける「ちゃこ」など。

あいしょう⓪[シヤウ]【愛唱】[←する(他サ)] 好きで、折につけて歌うこと。「—歌③」 ■②【愛(誦)】好きで、折につけて声に出して言ってみること。「—する古典」

あいしょう⓪[シヤウ]【相性】[陰陽(インヨウ)五行説などから見て]男女などの性格がうまく合っていること。「…とは—が良い」日本酒とビールのいいつまみ」 表記 【夫婦・親子・恋人などが】相手を自分にとってかけがえの無い存在としておしく思い、また相手からもそのように思われたいと願う、本能的な心情。広義では、生存するものを大切にかわいがる気持も含む。

あいじょう⓪[ジヤウ]【愛嬢】その人のかわいい娘。

あいじるし③[ジヤウ]【合印】①味方だということを知らせるための目印。②二枚の布を正しく縫い合わせるためにつける印。③あいいん。 表記 ①は「合(標)」とも書く。

あいじん⓪【愛人】①愛する人。②情婦・情夫」の婉曲(キヨクセン)な表現。

アイス(ice)氷 ■(造語) 氷などで冷たくしたものであることを表わす。「—コーヒー⑥④・—ウオーター⑤」 ■①アイスクリームの略。あずき—④・—もなか④」②明治時代、俗に「氷菓子」と同音なので、高利貸ダイの意にも用いられた]

あいず①[ヒ]【合図】[←する(自他サ)] 事前に当事者同士の約束として決めた伝達・確認の方法(によって知らせること)。「目・手まね・信号・楽器・のろしなどを使う」—を送る だれニ(なにヲ)—する

アイス キャンデー④(和製英語 +ice + candy) 甘みをつけた水を棒状に堅く凍らせた菓子。略して「キャンデー」とも。 かぞえ方 一本

アイス クリーム⑤[ice cream] 牛乳に砂糖・卵の黄身などを交ぜ合わせて凍らせた食品。「牛乳の脂肪分八パーセント以上のものと定められている」

アイス スケート⑤[ice skate] 氷上でするスケート。

アイス ダンス④[ice dance] フィギュアスケート競技の一種目。男女が対になって氷上を音楽に合わせて踊るように滑るもの。

アイスバーン④[ドEisbahn] 雪の表面が固まって氷のようになった状態(の山の斜面やスキー場)。

アイス ピック④[ice pick] 氷の塊を細かく砕くのに用いる、握りの太い錐(キリ)。

アイス ペール④[ice pail=手おけ] 砕いた氷を入れておくおけ状の卓上容器。

あいすべき④【愛すべき】(連体) ①かわいらしい。「—少女」②見ところがあり有り、出来るなら自分がめんどうを見てやりたい気持だ。「—青年」

アイスボックス④[icebox] 氷を使う(手軽な)冷蔵庫。

アイス ホッケー④[ice hockey] アイスリンクでスケートをはいてするホッケー。

あいすまぬ①[ヨ]④[ヨ]【相済まぬ】①許しがたいことで、そのままにしておけない。「そんなことでは—」②申しわけない。「どうも—ことをいたしました」

アイスリンク④[ice rink] スケートが出来る、氷が張った場所。「スケートリンク」とも。 かぞえ方 一面

あい・する③【愛する】(他サ) だれ・なにヲ ①(異性に対して)愛情をいだく。「一人のために/動物を—」②かわいがる」③好きでいたい。「詩を—」④かけがえの無いものと思って、大切にする。愛す①(五)。「真理を—」

あいせき⓪【哀惜】[←する(他サ)] 「人の死などを」惜しみ悲しむこと。「—でお願いします」 表記 「合席」とも書く。

あいせき⓪【愛惜】[←する(他サ)] 他の客と同じテーブルにつくこと。「—の念に堪えない」

あいせき⓪[ヨ]【相席】[←する(自サ)] 他の客が気持を強くいだくこと。

あいせつ⓪【哀切】[ヨウ] 非常にあわれで、身につまされる様子。「—な物語/—な調べ」 派 **—さ**⓪

あいせつ・する①⓪[ヨ]【相接する】(自他サ) ほかのものを間に置かないで、直接に隣り合う。「領土を—」—両国」

あいせん⓪[ヨ]【相先】[碁や将棋などで]交互に先番(バン)となって勝敗を競うこと。先方(センガタ)。

アイゼン①[ド Eisen=鉄] 登山靴の底に着用する、滑り止めの鉄製のつめ。 かぞえ方 一枚

あいぜん⓪【愛染】愛欲の煩悩から逃れられないこと。**—みょうおう**⑦⑤[ミヤウワウ]【(明王)】(真言宗で)三つの目・六本の手を持ち常に怒りの相を表わす、愛欲の神。も仏法守護の神。近世では恋愛の神・遊女の守り神としても信仰された。 かぞえ方 一体(タイ)

あいそ①[ヨ]【哀訴】[←する(他サ)] 「哀願」の強調表現。

あいそ③【愛想】①(「あいそう」の短呼)①客に心からサービスしようとする、応対の仕方や顔つき。「—がいい/—を振りまく」②(「正式の」の短呼)[←おかまいも出来ません]①余りのばからしさにあきれて相手をするのがすっかりいやになる)—もこもも尽きる(=「あいそが尽きる」の強調表現)「サラリーマン稼業にも—を尽かす」③好意を持って、相手になってやる気持。「—が尽きる(=「余」)」④⇩おあいそ

—つかし④【—尽かし】相手をするのがいやになって、とりあわないこと。**—わらい**④[ワラ]【—笑③】相手に取り入るための笑い。

あいそう③[サウ]【愛想】⇨あいそ

あいぞう⓪【愛憎】特定の個人にいだく愛情とそれに反する憎しみの気持。

あいぞう⓪[ザウ]【愛蔵】[←する(他サ)] 愛着をいだき、大切に保存すること。「—版⓪」

あいそく⓪【愛息】かわいがっているむすこ。

アイソトープ④[isotope=同じ位置] 原子番号が同じで、原子量の違う元素。訳語は、同位元素。「イソトープ③」。

****あいだ**⓪[アヒ]【間】[「だ」は接辞か] ①(A)直接続かない二つの△点(物の非連続部分に存在する空間・時間など。「木立の—」「すきま」から空がのぞく—」「絶え間」を置いて痛む。(B)問題関係などの有る双方に属さない。もの。あい。「—(「中間」)を取る—に入って(「仲裁者として」)丸く収める」—に立つ(「仲介する」)」②(A)一続きの時間・空間。「休みの—も研究を続ける」私が生きている—(「限り」はそんな事はしないでほしい」昔・尾張ワリ美濃ノの—(「地方」一帯)を流浪していたころ」(B)仲間うちとしての人間関係。「夫婦の—には三人の子がある(遠慮の無い—(「仲」)われわれの—(「仲間同士」の問題」生徒の—(「大多数」)に人気が有る」教学者の—(「社会」)では常識となっている」

—がら⓪【—柄】①血族・親類などの関係。「親子の—」②(交際などで生じる)人間関係。「麗しい師弟の—」

ぐい⓪[グヰ]【—食③】[←する(他サ)] 「かんしょく」の表現。

アイターン③【I—turn】[←する(自サ)] もともと都市部に住んでいた人が、地方に移住し定職に就くこと。⇨ユーターン

あいたい⓪[アヒ]【相対】余人を交えず、一対一の関係で何かをすること。「—死⓪」(「江戸時代、情死の形」)—ずく⓪(「当事者同士の話合いで何かを取り決めること。また、その結果」

あいたい・する①[ヨ]③[アヒ]【相対する】(自サ) 両者が△向かい合う(対立する)。

あいた しゅぎ・える④【他・主義】利他主義。

あいたずさ・える①[ヨ]④【相携える】(自下一) 何かを強力に進めるために、関係者が協力する。

あいちゃく⓪【愛着】[←する(自サ)] 「あいちゃく」の変化)今まで慣れ親しんだものを捨て去りがたく思う心。「古い町名に—を感じる」「—を覚える」

あいそう——あいのこ

あいちょう⓪[チヤウ]【愛鳥】①野鳥を大切に保護しようとすること(気持)。「—週間⑤(「五月十日からの一週間」)」②その人が大事に飼っている小鳥。

あいつ⓪(代) (「彼奴(キヤツ)②」の変化)「あの人・あれ」の意の、ぞんざいな言い方。(憎悪・侮蔑(ベツ)などの気持を込めた場合にも、親しみの気持を込めた場合にも使われる)「今度ばかりは—にいようにしてやられた」—(「(a)あの人、(b)あの事」)が気になる」⇨そいつ・こいつ・こあど

あいつ・ぐ①[ヒ]①⓪[アヒ](自五) 同じような好ましくないことが引き続いて起こる。△抗議(故障)が—」強豪相次いで敗れる」 ■[相継ぐ]「引き継ぐ」の改まった表現。

あいづち⓪③④[アヒ]【相槌】[刀を鍛える時などに、打ち合わせる槌の意]—を打つ(=人の話に調子を合わせたりうなずいたりする)」

****あいて**③[アヒ]【相手】①自分と△一緒(組)になって何かをする人。「結婚の—」ダンスの—をする」相談—⑤・遊び—④」②自分と相対して争う人。「—にしない(=とりあわない)/—にされない」—の立場を尊重する」—が悪い/けんか—」

—かた⓪【—方】△事件に関係する(行為を向ける)、相手の人。 **—ど・る**④【—取る】(他五) その人や組織などを相手と△する(と争う)。「狭義では、訴訟の相手として訴えることを指す。例、「△国(県)を—」」

***アイデア**③[idea=考え・理念・観念] 何かを実現するための方法や手段としてふさわしいのではと思い巡らせた考え。アイディア。「いい—(=思いつき)だ」—マン④」

アイティー③【I—T】[←information technology=情報技術] コンピューターを用いて情報を処理したり他のコンピューターと通信したりする技術。「—産業⑤」

アイディー カード⑤[ID card] [ID=identity, identification の略]身分証明書。

あいでし⓪[アヒ]【相弟子】同じ師匠・先生に就いて、一緒に学ぶ(学んだことの有る)弟子。「狭義では、同格の弟子を指す」⇨同門

アイテム①[item=(個個の)項目] (衣料品などの)個個の品目。「ファッション—⑤」

あいてら・す①[ヒ]②[アヒ]【相照らす】(他五) ⇨肝胆(カン)

アイデンティティー③[identity=自己同一性] 自分という存在の独自性についての自覚。

あいと⓪[ヒ]【哀悼】[←する(他サ)] 人の死を心から悲しんだり惜しんだりすること。「—の意を△表する(さげる)」

あいどく⓪【愛読】[←する(他サ)] [その書物や新聞などを]好きでよく(いつも)読むこと。「—者④③」—書⑤⓪③」

あいともな・う①[ヒ]③[ヒモナフ]【相伴なう】(自五) ①だれかを一緒に連れる。 ②同立しがたいものが共に備わる。「名実—」

アイドリング①⓪[idling] △機械を作動させ(エンジンを低速で回転して)、動力を伝えること無く空回りさせること。**—ストップ**⑧【和製英語 +idling + stop】(自動車で)二酸化炭素排出の削減などのために、駐停車中にエンジンを完全に停止させること。

アイドル①[idol=偶像] 限り無き△崇拝(ウヤマ)れ・寵愛(アイ)の対象となるもの。「—歌手」

あいなかば・する①②[ヒ]①③[ヒ]【相半ばする】(自サ)(対照的な関係にある物事の度合がほぼ同じである。「△功罪(収支)—」

あいなめ⓪ からだは細長く、緑を帯びた茶色の近海魚。長さは三〇センチくらいで、食用。「あぶらめ」とも。「アイナメ科」 かぞえ方 一尾・一匹

あいな・る①[ヒ]【相成る】(自五) 「成る」の改まった言い方。「お世話に相成りました」

あいなるべく①[ヒ]【相成るべくは】「出来ることなら」の改まった言い方。

***あいにく**⓪【(生憎)】(副)①⓪ 「あやにく⓪③」の変化)肝腎(カン)なことなら(=「都合の悪い」)事にみな留守だった」—(と)病気で行かれない/お—さまですがただ今品切れです」 **運用** 「おあいにくさま」の形で、相手の期待がはずれたことを皮肉るのにも用いられる。例、「おあいにくさま、そうは、思い通りにはなりませんよ」

アイヌ①[アイヌ Ainu=人間] 東北地方以北を中心に居住した、日本列島の先住民族。現在は、おもに北海道に住む。「昔、「えみし」・「えぞ」と呼ばれたのは、このアイヌ民族を指すという」—コタン④[=アイヌ村]」

あいのこ⓪[アヒ]【(間の子)】[雑種の意] ①「混血児」の俗称。「侮蔑(ベツ)の意を含意することもある」②異なる種・品種の交配によって生じた動物。「イノブタはイノシシとブタの—だ」

【】の中の教科書体は学習用の漢字、〈 は常用漢字外の漢字、≪ は常用漢字の音訓以外のよみ。

** * は重要語、⓪ ①… はアクセント記号、品詞の指示の無いものは名詞およびいわゆる連語。

あいのて——あいれん

(三)種類・性質の異なる二つの物を組み合わせて一体化させたもの。「一弁当[5](一日明治末から大正期に、米飯にフライ・カツなどを添えた弁当)」 表記 合の子とも書く。

あいのて[3]アと【合の手】 (一)〔邦楽〕〔ア〕唄(ウタ)と唄との間に入れる、三味線だけの短い演奏。(二)歌や踊りの間に入れる(入る)掛け声や手拍子。(三)当事者間の会話などに横から口入れる(入る)賛同を示す言葉。「一を入れる」 表記 「間の手」とも書く。

あいのり[0]アと【相乗(り)】—する(自サ) (一)(見知らぬ者同士が)同じタクシーなどに乗ること。(二)共同でチャンスを利用すること。「一番組[5](二複数のスポンサーによる番組)」

あいば[1]【愛馬】 (一)自分がいつも乗る、大切にしている馬。(二)馬をかわいがること。「一精神[4]」

あいばん[0]アと【相判】 (一)合印。(二)連帯して責任を持つしるしに押す印。

あいばん[0]アと【相判】 普通のノートの大きさで、週刊誌より一回り小さいサイズの、紙の寸法。縦約二一センチ、横約一五センチ。〔写真乾板では、縦一三センチ弱、横一〇センチ強のものを指す〕 表記 「(間判・合判)」とも書く。

アイバンク[3]〔eye bank=目の銀行〕死後、自分の角膜を移植希望者に提供する制度。また、角膜の提供者の登録・移植の仲介などを行なう機関。

あいはん・する[1-3]〔1-1〕アと【相反する】(自サ) 比較する両者の間に、対照的な関係が認められる。相反す[1-1]

アイビー[1-3]〔ivy〕 観葉植物の一つ。ツタの栽培種で、常緑。〔ウコギ科〕 かぞえ方 一株・一本 **—リーグ**[5]〔Ivy League〕米国東部の八つの名門私立大学。また、そのスポーツリーグの名。 **—ルック**[5]〔和製英語 ←ivy + look〕アイビーリーグに属する大学生に流行した服装。

アイピー[3]【IP】〔←internet protocol〕コンピューターネットワークに接続する個個のコンピューターにアドレスを割り振り、データ転送における伝送経路の確定方法を定めている。

アイピーエス さいぼう[オ7]【i-PS細胞】〔←induced pluripotent stem cells〕人工的に合成した細胞。受精卵や胚ではなく体細胞に遺伝子を導入し、生体の様ざまな組織に分化する能力を持たせたもの。誘導多能性幹細胞・人工多能性幹細胞」とも。

あいびき[0]アと【逢(い)引き】—する(自サ) 恋し合う男女が人目を忍んで会うこと。 表記 「(媒曳)」とも書く。

あいひとし・い[1-3]アと【相等しい】(形) 双方を比べたとき、長さ・形・大きさなどが互いに全く同じだ。

あいびょう[オ0]ベと【愛猫】(ペットとして)かわいがっている猫。また、猫の性情を理解し、かわいがること。「一家[ヵ]」

あいふ[0]アと【合い符】 昔、駅で手荷物を預かったしるしに渡した札。 かぞえ方 一枚

あいふ[1]【愛(撫)】—する(他サ) (一)常に自分のそばに置いておわいがること。(二)愛情の表現として、なでたりさすったりすること。

あいふく[0]アと【(間)服】 春・秋に着る洋服。あいぎ。⇨冬服・夏服 表記 「合服」とも書く。 かぞえ方 一着

あいふだ[0]アと【合い札】 品物を預かったしるしに渡す札(半券)。〔もとは、割符(フダ)を使った〕 かぞえ方 一枚

あいべつりく[5]【愛別離苦】 〔仏教で〕八苦の一つ。愛する人と別れわかれになる苦しみ。 表記 俗に、「哀別離苦」とも書く。

あいや[0]アと【相(部屋)】 〔宿屋などで〕見知らぬ者同士が(同じ部屋に寝泊まりすること。 表記 ⇨付表「部屋」

あいほ[1]【(愛慕)】—する(他サ) 特定の相手に対して深く心を寄せ、できることならいつもそばに近くにいたいと思うこと。

あいぼう[0]ボウと【相棒】 〔「駕籠(カゴ)を一緒にかつぐ相手」の意から〕上下の意識なく一緒に仕事をする仲間。

あいぼし[0]アと【相星】 〔すもうで〕対戦する両者の、その場所での勝敗の数が全く同じである状態。〔「五勝三敗の—」〕

アイボリー[1]〔ivory=象牙(ゾウゲ)〕象牙色(の厚い西洋紙)。

あいま[3]〔0〕アと【合間】 次の事が(と)行なわれる(起こる)まで(の)、短い時間。「仕事の—」「梅雨(ツユ)の—」

***あいまい**[0]〔曖昧〕—な 〔「曖」も「昧」も暗い意〕(一)言動や態度などに不明確な点があり、的確に判断しがたい様子だ。〔自分の有利な立場を失いたくない、また、責任を取らされることを避けたいなどの理由で意図的に自分の意志を明確に表示しないことを表わす場合に言うこともある〕「—な表現/思惑があって—な態度を取る/—に返事をしておいた/—模糊(モコ)[5]」 ←明確・明瞭(リョウ)。(二)隣接するものの境界に関係なく欠く様子だ。「記憶が—だ/—な判定規準」 (三)〔明治・大正期の用語〕風紀上、いかがわしい点が認められる状態。「—屋[0]・—宿(ヤド)[5]」 派 **—さ**[0]

あいま・つ[1-1]アと【相(俟)つ】(自五) 〔「俟つ」は期待する意〕二つ以上の事が重なって働く。「両両相俟って(ロ二つの要素が重なって、プラスと成る)」

あいみたがい[1-0]タガと【相身互い】 同じ困った境遇にある人同士が互いに同情し、助け合うこと。「武士は—」 表記 俗に、「相見互い」とも書く。

あい・みる[1-1]アと【相見る】(自上一) 〔会見する・見合う〕の改まった表現。「一両雄」

アイモ[1]〔Tyemo=商標名〕 手さげの三五ミリ撮影機。ニュース映画用。 かぞえ方 一台

あいもかわらぬ[1-0]〔1-4〕カワラヌ【相も変わらぬ】 相変わらず以前と同じままの〔好ましくない〕状態である。「愚痴の繰返し」

あいもち[0]アと【相持ち】 (一)代わりあって(一緒に)荷物などを持つこと。(二)費用などを等分に負担すること。

あいやど[0]アと【相宿】 〔見知らぬ者同士が〕同じ宿(部屋)に泊まり合わせること。

あいよう[0]【愛用】—する(他サ) (強い愛着があって)いつもそれを使うこと。「—者[3]・—品[0]・—車[3]」

あいよく[0]【愛欲・愛(慾)】 異性に対する強い性愛の欲望。〔道徳的見地からの表現〕

あいよめ[0]アと【相嫁】 兄弟の妻(が互いに相手を呼ぶ称)。

アイライン[3]〔eye-line〕(女性が)目を大きく見せるために、目のまわりをえがいた線。

あいらく[0]【〔哀楽〕】 悲しみと楽しみ。「喜怒—」

あいらしい[4]【愛らしい】(形) 〔幼児や小さな動物の表情やちょっとしたしぐさ・可憐な草花などを見て〕いかにもかわいらしいという印象を受ける様子だ。「一花」 派 **—さ**[3]

アイリス[1]〔iris〕 西洋種のアヤメ。花弁が少し細く、色彩に富む。生け花などによく使われる。〔アヤメ科〕 かぞえ方 一株・一本

あいれん[0]【哀憐】 〔「あわれみ」の意の漢語的表現。「—の情」〕

あいれん[0]【愛憐】 弱い立場の者に思いやりの気持をい

だき、できるかぎりのことをしてやろうと思うこと。

あいろ[0]【(文色)】 〔雅〕〔「あやいろ」の変化〕模様。「物の—〔=区別〕も見え分かず〔=分からない〕」

あいろ[1]【(隘路)】 (一)狭くて(けわ)い道。(二)物事を順調に進める上で障害となることがら。「販売の—」を切り開く」

アイロニー[1]〔irony〕〔文芸用語で〕表現技法として用いる、事実に反する言い方。〔狭義では、皮肉・あてこすりなどを指す。「イロニー」とも。〕⇨反語

アイロニカル[3]〔ironical〕〔皮肉(ニク)〕を含んだ。

アイロン[0]〔iron=鉄〕(一)衣服や布のしわを伸ばしたり折り目をつけたりするために、加熱して用いるスチール製品。〔普通は、電気アイロンを指す〕「ズボンに—をかける/スチーム[5]」 (二)髪の毛の癖を直したり形を整えたりするために使うこて(をかけること)。 かぞえ方 (一)は一台

***あいわ**[0]【(哀話)】 あわれな(身の上)話。

***あ・う**[0]アと【合う】 ■(一)(自五) (一)〔なにだれト一〕接近して一体化したり両者の間に食い違いが認められなかったりする。「どこまで行っても—ことの無い二つの線/帳尻が—/二人の証言は合っている/つじつまが—/ぴたりと〔阿吽(ウン)の呼吸が—/〕意見(そり)が合わない」 (二)〔なにニ一〕基準と比べて見て、矛盾・不一致・不都合が無い状態だ。「趣味(体質)に—/基準・実情・実態に合わない/時計が合っていない〔=正しくない〕」 (三)〔なにニ一〕二つの物を組み合わせてみて、違和感が無く見られる様子だ。「服に—ネクタイ/壁紙によく—カーテン」 (四)〔なにニ一〕それだけ〔=労力(元手)〕をかけても、ある程度の利益が見込まれる状態だ。「百円では合わない〔=損だ〕/採算が—/割に合わない」 ■(一)〔動詞連用形+一〕の形で、接尾語的に同じ動作を、向こうもしこうもするもする。「愛し—[4]ほど—[3]・殴り—[4]」

***あ・う**[0]アと【会う】(自五) (一)〔だれト一〕ある場所・会を決めて〔偶然に〕人と一緒になり、互いに相手を認めたり話をしたりなどする。「いつもの場所で—」 (二)〔なにニ一〕(偶然に)好ましくない事態を経験する。「夕立〈交通事故・こわい目・火災・伏兵・袋だき・反対・抵抗〕に—」 名 会い

(一)「短い—のひとときの」 表記 (一)は「逢う」、(二)は「遇う・遭う」とも書く。

あいろ——あえる

アウエー[2]〔away〕〔サッカーなどで〕相手チームの本拠地。「アウエー」とも。「—でのゲーム」

アウター[1]〔←outerwear〕 ↔インナー ⇨アウトウエア

アウタルキー[3]〔ドAutarkie〕自給自足。

アウト〔out〕 ■(一)(一)〔ナニスなど〕ボールをその範囲内に打つように規定している境界線の外側。また、そこにボールが出ること。↔イン (二)〔野球で〕その回の打者・走者としての資格を失うこと。〔俗にアウツとも言い、広義では失格・失敗・だめの意にも用いられる。〕↔セーフ・フェア (三)〔ゴルフで〕コースの前半。↔イン ■〔造語〕 外(ソ)。「コースの—」 [4-5]〔=上着の外側から布を当てて縫いつけたポケット〕」 ↔イン

アウト ウェア[4]〔和製英語 ←out + wear〕コート・セーターカーディガンなどの〔外出用の〕上着類。「アウター」また「アウトウエア[5]」とも。

アウトカーブ[4]〔outcurve〕〔野球で〕打者の反対側へ〔落ちながら〕曲がる投球。↔インカーブ

アウト コース[4]〔和製英語 ←out + course〕↔イン コース (一)陸上競技やスケート競技で〔曲線になっているコースの外回りの走路。(二)〔野球で〕本塁上の、打者から遠い方を通る、投球の道筋。

アウト コーナー[4]〔和製英語 ←out + corner〕〔野球で〕外角。↔イン コーナー

アウトサイダー[4]〔outsider〕↔インサイダー (一)局外者。〔自分たちがそこ社会の主流だと思っている人からみて、仲間に入ろうとしない、また、入れたくない人〕 (二)労働組合法の規定による組合。法外組合。 (三)〔経済で〕協定に加入しないもの。非加盟各者(団体)。

アウトサイド[4]〔outside〕↔インサイド (一)外側。「—キック[7]」 (二)〔テニスなどで〕打ち込む範囲を規定したラインの外側(にボールが落ちること)。

アウトシュート[4]〔ourshoot〕〔野球で〕打者の反対側へ反るように曲がる投球。↔インシュート

アウトソーシング[4]〔outsourcing〕外部委託。業務の一部や事務処理などを外部に発注すること。

アウトドア[4]〔outdoor〕建物の外。「—スポーツ」 ↔インドア

アウト ドロップ[5]〔out drop〕〔野球で〕打者の反対側へ急に曲がり落ちる投球。略して「アウドロ[0]」とも。↔イン ドロップ

アウトバーン[4]〔ドAutobahn=自動車専用道路〕ドイツの高速道路。

アウトプット[4]〔output〕 ■↔インプット (一)—する(他サ)〔コンピューターなど、電気製品の〕出力。 (二)企業の売り出す資材。産出。 ■レコード プレーヤーや録音機を拡声器につなぐ装置。

アウトボード エンジン[7]〔outboard engine〕モーターボートなどのエンジンが、船体の外側に付いているもの。略して「アウト」とも。 ↔インボード エンジン

アウトライン[4]〔outline=輪郭〕事柄の大体の内容。

アウトロー[4]〔outlaw〕無法(者)。

アウトヘーベン[4]—する(他サ)〔ドaufheben〕止揚。

あうん[0]〔阿吽・〔阿・阿・阪〕〕出す息と吸う息。「—の呼吸」が合う〔=すもうなどで、双方の立ち上がろうとする気合が一致する〕」

あえか[1]〔雅〕かよわく、美しい。

あえ・ぐ[2]ア【(喘ぐ)】(自五) (一)苦しそうに息を切らしながら呼吸する。「喘ぎ喘ぎ進む」 (二)困難な状態にあって苦しむ。「=重荷(物価高・貧困・不振)に—」

あえず[1]ヤ【(取)えず】〔「動詞連用形+(も)+—」の形で、接尾語的に〕十分にはそうすることが出来ないで/〔言いも—〔=言い終わらないうちに〕/涙せき—〔=涙をこらえきれないで〕〕

あえて[1]ヤ【(敢)えて】〔副〕自分の置かれた立場や状況から見て、損失や危険を伴うことを承知の上で、成功した際の効果を期待して、思い切ってその事を実行する様子。「反対意見を押し切って、一決行した/—言わせてもらえば、君は辞任した方がいい/人権問題にかかわること故、—再考を求める/そんなぜいたくな物は—〔=無理してまでも〕食べたいとは思わない」

あえない[3]ヤ【(敢)えない】(形) 予測に反したもろい結末を迎える様子だ。「最期を遂げる/取え無くも敗れた」 文法 助動詞「そうだ(様態)」に続くときは「あえなさそうだ」の形になる。「あえなさすぎる」とも。また、「あえなさそうだ」と結びついて複合動詞をつくるときは「あえなさすぎる」の形になる。

あえもの[0]②③ア【(和)物】酢・みそなどで和えた食品。 表記 「(雅物)」とも書く。

あ・える[2]ル【(和)える】(他下一) 生の野菜・魚・貝などに、みそ・酢・ごま・豆腐などを交ぜ合わせて味をつける。 名

** * は重要語，[0] [1]… はアクセント記号，品詞の指示の無いものは名詞および いわゆる連語。

和名2〔酢みそ一9〕 **表記**〔〝韲〟える〕とも書く。

あえん0①【亜鉛】(一)金属元素の一つ〔記号 Zn 原子番号30〕。青白い色で、展性があって、トタン板・電極などに用いる。(二)トタン。「—ぶきの屋根」 **—か**0クワ【—華】亜鉛を酸化させて作る白い粉〔=酸化亜鉛④〕。顔料・医薬用〔化学式 ZnO〕 **—軟膏**ナウ5 ⇨チンク油

***あお・い**2アイ【青】 ■1(一)よく澄んだ空の色に代表される色。〔濃い「青」は三原色の一つ。植物学では、花の色の二大区分として赤と対比させる〕「秋晴れの—一色の空」「海の—に白いカモメ」 (二)草木の新芽や若葉の明るい薄緑色。「—葉若葉」 **—物**1 (三)〔馬の〕つやの有る黒い毛色。また、その馬。⇨青馬・青毛 ■(造語) 年が若くて、経験が不足していることを表わす。「—二才」

あお・あざ0ア【青痣】皮膚の一部に出来る青(黒)い感じを与える様子。「—と茂った草」

あお・あら3【青嵐】〔短歌・俳句など〕初夏、青葉のころに吹くさわやかな風。

***あお・い**2イ【青い】(形) ↔赤い (一)青の色が認められる状態だ。「—秋の空」「—目」〔=西洋人〕の見た日本」 (二)顔色が青ざめた様子だ。「—顔をしている」 (三)実などが、まだ熟さない状態だ。「—ミカン」 派**—さ**1 **表記** (一)は〔「碧い」〕(二)は〔蒼い〕とも書く。 **—とり**2①0【—鳥】幸福の象徴とされる(想像上の)鳥。〔メーテルリンクの童話劇から〕

あおい0ヒア【〝葵〟】(一)アオイ科に属する、タチアオイ・モミジアオイなどの植物の総称。多く、園芸種として栽培される。〔広義では、他の科に属するテンジクアオイ・フタバアオイなどアオイの名のつく植物も指す〕 (二)紋所の名。〔狭義では、ミツバアオイにかたどった、徳川氏の紋所を指す〕〔かぞえ方〕(一)は一株・一本 **—まつり**4【—祭】京都の賀茂カモ神社の祭り。〔賀茂祭マツリ3〕の通称。〔昔は四月の中の酉トリの日に行なわれた〕

あおいき0アオ【青息】苦しんだり悩んだりしてつくため息。 **—といき**5【—吐息】困難を乗りこえたり心配事を解消したりすることが出来そうもなく、苦しみ悩む様子。

あおいろ0アオ【青色】青い色。 **—しんこく**5【—申告】〔事業所得者が青色の申告用紙で行なう〕所得税・法人税の申告方式。税額算定の基礎として、所定の帳簿への記帳を条件として、専従者控除や損金算入などが認められる。

あおうなばら4③アオ【青〈海原〉】〔雅〕無限とも思えるほどの広大な海。 **表記**⇨付表「海原」

あおうま0アオ【青馬】つやの有る黒い毛色の馬。「—の節会セチ」〔あお」とも〕 ■(白馬)〔雅〕白い毛色の馬。

あおうみがめ4③!アオ【青海亀】暖かい海にすむ大亀。四足はひれ状。背中の甲は、べっこうの代用。「正覚ショウガク坊」とも。〔かぞえ方〕一匹

あおうめ2アオ【青梅】未熟で青いウメの実。

あおうえんどう3アエ【青豌豆】グリーンピース。

あおかい0①2①【青貝】(一)真珠のような光沢を持つ貝。螺鈿デン用。 (二)アワビの貝の裏を磨いたもの。ボタンなどに使う。〔かぞえ方〕(一)(二)とも一枚

あおがえる3ガエル【青〈蛙〉】アマガエルに似た大形のカエル。背中は一面緑色。〔アオガエル科〕〔広義では、トノサマガエル・アマガエルなど、緑色のカエルを指す〕〔かぞえ方〕一匹

あおかび0①【青〈黴〉】もち・のりなどに生える緑色のカビ。このうちの一種は、ペニシリンの原料。

あおがり0①【青刈】(一)〔家畜の飼料や緑肥とするために〕実が熟さないうちに刈り取ること。「—大豆」

あおき0①【青木】山野に自生し、また庭木とする常緑低木。春に紫がかった緑色・小粒の花を開く。雌雄異株

あおきなこ3【青〈黄粉〉】薄緑色の上等なきなこ。青大豆を煎(イ)ってひいたもの。

あおぎ・みる4ミル【仰ぎ見る】(他上一) (一)顔を上げて、上の方(のもの)を見る。「雪の富士を—」 (二)高い存在として、畏敬(イケイ)の念をもって見る。「—我が師」

あおぎり0②【青桐】庭木・街路樹に用いる落葉高木。葉はキリに似て、幹は緑色。〔アオギリ科〕 **表記**古来の用字は、〔梧桐〕。〔かぞえ方〕一株・一本(ポン)・一枚(マイ)

***あお・ぐ**2グア【仰ぐ】(他五) (一)〔なに・どこヲ〕顔を上げて、上の方を見る。「天を仰ぎ、地に伏す」 (二)〔だれヲ〕自分の手本とすべき人として尊敬し、その生き方や考えを見習う。「…を指導者と—」「師として—」「武人の鑑カガミと仰がれる」 (三)〔だれニなにヲ—〕人資格や権限を有する(信頼できる)人に頼んで、何かをしてもらう。「△裁可(支持・判断・批判)を—」「原料を外地から入手する」 (四)〔だれヲなにニ—〕しかるべき人に頼んで、最高の地位に就いてもらう。「△裁決を—」 ⇨毒

あお・ぐ2グア【〈扇ぐ〉】(他五)〔うちわ・扇などを動かして風をおこす。 **表記**「煽ぐ」とも書く。

あおくさ0①【青草】青あおとした草。

あおくさ・い4イ【青臭い】(形) (一)青菜や未熟なトマトなどを切ったときのにおいがする感じだ。 (二)経験が乏しいなどして、いかにも未熟だという印象を与える様子だ。「—議論に閉口した」 派**—さ**4

あおげ0①【青毛】馬の毛色の名。青みを帯びた黒色。略して「あお」とも。

あおこ0③!【青粉】(一)青のりを粉にしたもの。 (二)タカナ鉢などに発生し、水を緑色にする、微細な藍藻ラン類や緑藻類の総称。〔増えすぎると有害となる〕

あおさ0①【〈石〉蓑】〔緑藻類の海藻。浅い海の岩に付き、薄く、平たい。食用。ちぎりの①2〕とも。〔アオサ科〕

あおざかな3【青魚】背中の青い魚。例、イワシ・サンマ・サバなど。

あおざむらい3ザムラ【青侍】〔官位の低い者、特に六位の侍が青色の袍ホウを着ていたことから〕年が若くて、頼りがいのなさそうな侍。

あおざめる4ル【青ざめる】(自下一)〔病気や恐怖心などのために〕血の気を失って、顔が青白くなる。「青ざめた顔」 **表記**〔「蒼ざめる」とも書く。

あおじ0 ■ヂア【青地】織物などの地(ジ)の青いもの。 ■ヂア【青磁】(青味がかった)青色。

あおじしお0アオ【青潮】海底の有機物が腐敗して酸素をほとんど奪われた状態の水塊が、海面に上昇し、青白く見える現象。 ⇨赤潮

あおじそ0①【青紫〈蘇〉】シソの一種。葉は緑色。夏から秋にかけて白い花をつける。香りが強く、刺身のつま、一夜漬などに使う。食品名は、おおば、〔シソ科〕〔かぞえ方〕一本。葉は一枚

あおじゃしん3ジャ【青写真】(一)青地に白く設計図・文字などを焼き付けた複写写真。「—を描く(示す)」 (二)新規事業などについて立てたおおよその構想。「街の中心部の再開発について—」

あおじろ・い4イア【青白い〈・蒼白い〉】(形) (一)白色の中に少しかすかに青みを含んでいる様子だ。「月の—光」 (二)(恐怖や病気などで)青ざめた様子だ。「—顔」 派**—さ**3

あおし・んこう3ンコウ【青信号】(一)進行可能などを知らせる(青または緑色の)信号。 (二)危険があるなどして一時的に停止していたものの安全が確認されて、△着手(続行)可能な状態になること。また、その知らせ。「補修が終わり、工事再開の—が出た」

あおすじ0アオ【青筋】皮膚の上から青く透いて見える静脈。「—を立てて怒る」〔かぞえ方〕一本

あおせん0【青線】(一)青い色の線。 (二)↔青線地帯 (三)〔5〕赤線地帯の周辺にあって、営業許可を得ずに売春を行なっていた飲食店街。

あおそら1アオ【青空】 ■(造語) 戸外で行なう。「—教室」「—市場」 ■(自動)〔5〕道路を車庫代りにする違法駐車」

あおた0ア【・青田】稲の青あおとしている田。(十分に実らないうちに刈られる) **—がい**0ガイ【—買い】(一)稲のとりいれ前に、収穫高を見越して前もって(安く)買うこと。〔戦前、米穀商などが、金に困った米作農家を相手に行なった〕 (二)〔俗に〕最終学年になって間も無く(いたる前の)学生と入社契約を結ぶこと。〔誤って、「青田刈り0」とも言う〕

あおだいしょう3ショウ【青大将】ヘビの一種。からだは緑色を帯び、長さ二メートル近くなる。無毒。〔かぞえ方〕一匹

あおだけ0①【青竹】幹の(まだ)青い竹。

あおだたみ3アオ【青畳】新しくて表が青々を帯びた畳。

あおだち0①【青立ち】〔成熟の時期が来ているのに〕天候不良などのために、稲が未熟のままであること。また、その稲。

あおっぱな0④アオ【青っ洟】子供などが垂らす、青い鼻汁。

あおてんじょう3ジョウ【青天井】(一)青空を天井に見立てて言う言葉。野天テン)。 (二)株式相場などで、際限なく、値上がりを続けること。「株価は—」〔青空とも言う〕

あおどうしん3ドウ【青道心】仏門に入り、僧になったばかりで、十分に修行を積んでいない人。

あおな0②1【青菜】コマツナ・ホウレンソウ・白菜など、葉の部分を食べる野菜。 **—に塩**〔元気が無くて、しおれている様子の形容。

あおにさい3ニアオ【青二才】〔「二才」は、二歳魚の意〕成

あおのく3アオ【〈仰のく〉】(自五)「あおむく」の変化。 他動 仰のける④(下一)

あおり0①2①【青海〈苔〉】緑藻類の海藻。浅い海の岩などに付き、筒状で細長い。干して食用とする。かおりがよい。〔アオサ科〕〔かぞえ方〕小売の単位は一瓶・一袋

あおば1①2アオ【青葉】(初夏の)緑色の(若)葉。

あおばえ1①2アオバ【青蠅・蒼蠅】青黒い、大形のハエの俗称。〔人にしつこくつきまとう者のたとえにも用いられる〕〔かぞえ方〕一匹

あおひかり1③0【青光】(一する)(自サ) 青緑色△の光(に光ること)。

あおひとぐさ4ア【青人草】〔雅〕国民。〔人がふえるのを草の生長にたとえた語〕

あおびょうたん3ベウ【青〈瓢箪〉】未熟で青いヒョウタン。〔俗に、顔が長く、やせて顔色の悪い人の意。軽い侮蔑ベツを含意して用いられる〕

あおぶくれ0①【青膨れ】(一する)(自サ) 顔色が悪くて、むくんだように見えること〔人〕。

あおぶさ0①【青房】〔すもうで〕土俵の上方から吊(つ)り下げた屋根の北東部から垂らした青い房。もと〔青柱③〕の有った位置。 ⇨赤房・黒房 〔かぞえ方〕一本

あおまめ0①【青豆】(一)緑色で大粒のダイズ。「青大豆3」とも。 (二)グリーンピース。青えんどう。 (三)枝豆。〔かぞえ方〕(一)の小売の単位は一袋

あおみ0③!【青み・青味】(一)青いと感じられる△状態(度合)。「—を帯びる」 (二)青い色。 (三)青くさい△こと(味やにおい)。 ■(青み・青味)〔料理で〕吸い物などに入れる、緑色の野菜。 ■(青身)サバ・イワシなど、青魚の身。⇨白身・赤身

あおみどり3!【青緑】(一)緑色がかった青色。 (二)⇨あおみどり

あおみどろ3!【青〈緑・水綿・青味泥〉】緑藻類の水草。トロロコンブを溶かしたような状態で緑色。水田・池・沼など淡水に生じる。あおみどり。〔ホシミドロ科〕

あおむ2ムア【〈仰む〉】(自五) 青い色になる。「青み渡る」

あおむく3!【〈仰向く〉】(自五)(首を後方に傾けて上を向く。 ↔うつむく 名 仰向き0 「—加減」

あおむけ0!【〈仰向け〉】〔人が〕顔や横たえたからだを上に向けた状態。「—に横たわる」 動 仰向ける⑤(他下一)

あおむし2!【青虫】チョウ・ガの幼虫の中で、長い毛やとげが無いものの俗称。比較的小形。〔かぞえ方〕一匹

あおもの2!【青物】(一)野菜類の総称。「—市場イチ5」 (二)青魚ナチ。

あおやか2!【青やか】(一)に青い色が鮮やかに感じられる様子だ。

あおやき0!【青〈焼き〉】(一)青あおと茂ったヤナギ。 (二)バカガイ(のむき身)。すしなどに使う。

あおり3リア 馬具の名。鐙(アブミ)と馬のわき腹との間に下げる、泥よけの皮(毛皮)。 **表記**古来の用字は、〔障泥〕・〔泥障〕。〔かぞえ方〕一枚

あおり1リア【〈煽り〉】 ■3 (一)あおること。「世界的な穀物不足の—を」 (二)影響をあたえること。 (三)〔写真で〕〔レンズのゆがみを修正するために〕撮影・焼付けの時に、フィルムや印画紙の面を上下(左右)に少し曲げて、フィルムに映った像を変化させること。〔転じて、特殊効果をねらい、被写体をゆがんだ状態に写すことを指す〕 **[—]**を食う(一)強風や、通過列車などで引き起こされた風圧をまともに受けなどして、転んだり倒れたりする。 (四)激しい変動の影響を受けて、好ましくない事態を招く。

[—](造語) 動詞〔煽る④〕の連用形。「—行為④」—どめ0

—た・てる5【—立てる】(他下一) 先見の明のある人から見れば必ずしも歓迎すべからざる状態を引き起こす。〔不信感(反目)を—〕

あお・る2ルア【〈煽る〉】 ■(他五) (一)風を起こして、火の勢いを強める。「火を—」 (二)強い風が吹いて、物を上下左右などに激しく揺り動かす。「強風に煽られる」 (三)むち打ったり、馬を急がせる。 (四)そそのかすなどの手段によって、そのような気持を起こさせ、ある状態が生じるように仕向ける。「△民衆(競争心・景気・危機感・世論)を—」 (五)〔相場を自分に有利になるように操作する手段として〕一度に大量の買い付けをする。 (六)〔酒などを〕(あおむいて)一気に飲む。 (七)〔カメラを〕広角レンズで、下から上に向けて写す。 **表記** (六)は普通、「呷る」と書く。 (七)は普通、「煽る」と書く。 ■(自五) 風を受けて揺れ動く。「風で戸があおっている」 ⇨煽り■

あか ■1【〈閼伽〉】〔梵ボ語で、もと仏に供える香水スイカを

あおしんご——あか

【 】の中の教科書体は学習用の漢字、〈 は常用漢字外の漢字、≪ は常用漢字の音訓以外のよみ。

** * は重要語、⓪ ①… はアクセント記号、品詞の指示の無いものは名詞および いわゆる連語。

あか——あかじみる

盛る器の意）△仏（お墓）に供える水。〔一桶ヨ〕〔3〕〔2〕・一棚〔0〕・一井〔0〕〔かぞえ方 一 樋ヒ〕〔2〕〔注〕舟の底にたまった（汚な）水。〔■は、■に基づく忌み言葉とも、垢カの意とも言う〕〔かぞえ方 一杯〕

あか①【赤】（一）人間の血や、燃える火に代表される明るい色。〔三原色の一つ。植物学では、花の色の二大区分として青と対比させる〕一鬼〔0〕・一御飯〔3〕〔せきはん。あずき飯〕（二）紅色・桃色・濃いだいだい色・明るい茶色など、〔赤〔0〕〕に近いと感じられる色。〔一犬〔0〕・一花〔0〕・一毛〕（三）停止・危険を知らせる信号の色。〔一信号〕（四）校正・簿記などに用いる赤色の字。〔ゲラ刷りに一を入れる〕（五）〔赤い色を旗印にしたことから〕共産主義（者）。〔かつてはマルクスの『資本論』を持っているだけで一と言われた〕（六）〔多く接頭語的に〕それ以外の何物でもないことを表わす。〔一〔全く〕の他人／一恥・一裸〕

あか②【垢】（一）洗ったり拭ったりき清めたりしない皮膚に、汗・脂・ほこりが交じって出来る汚れ。〔旅の一を流すつめの一〕〔一ほんのわずか〕ほとも分けてやらない一付き〕〔一垢で汚れる〕（二）水あか。〔表記 ①は、「淦」とも書く。〕

あか[1]【銅】〔「赤金アカガネ（一銅）」の略。〔一のなべ〕

あか[2]【赤】〔赤金アカガネ（一銅）」の略。〔一のなべ〕

あか[3]【赤赤】（副）と 光の明るさがきわだって感じられる様子。〔一と灯をともす〕

あかあか[3]【明明】（副）と 光の明るさがきわだって感じられる様子。〔一と灯をともす〕

あかあざ①【赤痣】（一）打身のために皮膚の下に血がにじんで出来る、赤い痣。（二）血管がはれて、皮膚が赤い痣のようになるもの。〔医学的には「血管腫シュ[3]」を指す〕⇨あおあざ

あか・い①【赤い】（形）赤の色が認められる状態だ。〔一夕日が沈む／恥ずかしさで顔が赤くなる〕↔青い 派**—さ**①**—はね**①〔一羽根〕共同募金に協力したしるしとして渡される、赤く染めた鳥の羽根。

あかいわし[3]【赤鰯】〔イワシを塩漬けにすると赤みを帯びるので〕塩漬けのイワシ。〔赤くさびた刀や病的に赤い目の意にも用いられる〕

アカウンタビリティー[6]〔accountability＝責任である〕社会の了解や合意を取りつけるために、行政機関や企業が情報公開をする責任。説明責任。

アカウント①②〔account〕（一）銀行預金口座。〔簿記でのの）勘定。（二）コンピューターやネットワークシステムを利用するための固有のIDナンバーやその権利。ユーザーの識別や、個別の情報管理のために用いられる。

あかえい①【赤（鱆）】四国などの海にすむ菱ビ形の魚。背中は薄黄色で、腹は白色。食用。〔アカエイ科〕〔かぞえ方 一尾・一匹〕

あかがい②【赤貝】海でとれる二枚貝の一種。貝殻は心臓形、肉は赤くて美味。〔フネガイ科〕〔かぞえ方 一枚〕

あかがえる③【赤蛙】背中は赤茶色で、斑点ハンの有るカエルの総称。〔アカガエル科〕〔かぞえ方 一匹〕

あかがし①【赤（樫）】高さ一〇メートルに達する常緑高木。木材は赤色で、堅くて用途が広い。〔ブナ科〕〔かぞえ方 一株・一本〕

あかがね①【銅】（一）〔赤金アカガネの意〕「銅ウ」の和語的表現。〔一でしあと〕〔一色〕

あかかぶ①【赤（蕪）】根の表皮（から内部まで）が赤紫色をしたカブ。漬物・酢の物・サラダなどに用いる。

あかがみ①【赤紙】赤色の紙。〔差押えの封印証書やかつての軍隊の召集令状の俗称〕〔一枚〕

あかぎ①【赤木】（一）皮をはいだままの材木。↔黒木 （二）赤い色の木材。カリン・シタン・ウメなど。

あかき③【足（掻き）】〔動詞「あがく」の連用形の名詞用法〕△足掻く（足掻こうとする）こと。〔一が取れない（ⓐ動こうとしても、自由に動けない。ⓑ打つ手が無くどうしようもない）〕最後の一を試める〔悪ワル—〕

あかきれ①【皹・皸】〔赤く腫ハれて切れる意〕〔寒さや労働のため〕冬、寒風にさらされたり冷水に浸されたりして、手足の皮膚に出来る。ひどい ひび。

あが・く②【足（掻く）】（自五）（一）〔馬などが前に進もうとして〕前足で地面をかく。（二）〔押さえられたり縛られたりした人などが〕自由になろうとして、やたらにからだ（の部分）を動かす。〔「周囲を打開しようとして、むだな努力をする」意にも用いられる〕

あかげ①【赤毛】（一）赤みを帯びた△毛（毛髪）。〔一のアン〕（二）〔劇で〕西洋人を表わす。赤い毛のかつら。

あかゲット①【赤ゲット】〔あがる＝は、だめになる意〕事業がうまくいかず、どうしようも無い状態。〔商売一だ〕

あかつち①【赤土】赤茶色で、粘り気のある土。〔鉄分を多く含む〕

アカデミー②③〔フ academie〕（一）〔欧米諸国で〕学問・芸術を総合的に指導する立場にある、権威の有る機関。〔訳語は△翰林リン院・学士院〕（二）〔権威の有る大学・研究所の称。〔**—しょう**[4]【—賞】アメリカで映画・映画人に与えられる賞の中で、最も権威の有るもの。一九二七年創設。〕

アカデミズム④〔academism〕官学における講壇的な学風や芸術活動における伝統的・高踏的な作風。

アカデミック④〔フ academique〕ものの見方や言動などが、△学問的（学究的）な様子だ。〔非実用的というニュアンスを込めて用いることもある〕〔一な立場から作勢分析〕

—ハラスメント⑧〔和製英語 ↑academic＋harassment〕大学や研究機関で、指導的な立場にある人が学生や所員に対し、権力を悪用して（性的な）嫌がらせや差別的な扱いなどをすること。アカハラ。

あかてん①【赤点】〔「落第点」の俗称。〔赤字で書くところから〕

あかでんしゃ③【赤電車】〔路面電車の〕終電車。方向標識に赤い電灯をつける。略して「赤電」とも。〔その一つ前は「青電車」〕。バスについても「赤バス・青バス」と言う〕

あかとんぼ③【赤とんぼ】小形で赤いトンボの総称。夏から初秋にかけて群れをなして飛ぶ。アキアカネは代表的な種。

あかな・う③[ナオ]（他五）〔「なう」は接辞〕■〔買う〕意のやや古風な表現。〔残りのお金で書籍を一ことができた〕■〔贖う〕相応の代償を払って、△罪や失敗を償う〔本来の望ましい状態を獲得する〕こと。△命（血）で一〕〔名 贖い①〕

あかぬ・ける④【（垢抜ける）】（自下一）〔言動・人に接する態度や髪型・服装などが〕都会風に洗練されている。〔名 垢抜け①〕〔一した女性〕

あかね①【茜】〔赤根の意〕山野に生える多年生のつる草。根から、黒みを帯びた赤い染料をとる。また、薬用。〔アカネ科〕〔一色①〕〔かぞえ方 一本〕

あかのまんま④【赤の飯】〔赤飯パンの意〕植物のイヌタデの異称。〔あかまんま③〕とも。〔つまみが赤飯に似ている〕

あかはじ①【赤恥】〔「恥」の強調表現〕〔人前でかき耐えがたい屈辱感にさいなまれる恥。あかっぱじ①。〔一をかく〕

あかはた①【赤旗】（一）〔紅白二組に分かれた〕赤組の旗。〔甚は、平氏の旗〕（二）危険・停止信号の赤い旗。（三）共産党・労働組合などの旗。〔（二）の対義語は、白旗タク〕

あかはだ①【赤肌・赤（膚）】皮のむけた、赤い肌。〔一の山〔一木や草が全くない山〕〕

あかはだか③【赤裸】（一）身に衣類（に類するもの）を何もつていない状態。（二）鳥や獣が、毛を全部むしられた状態。

あかばな①【赤鼻】〔酒飲みや病気の人の〕一般の人に比べて赤く見える鼻。〔軽い侮蔑ベツを含意して用いられることがある〕〔ざくろばな とも。〕

アカハラ①〔ハラスメント〕⇨アカデミック

あかはら①【赤腹】（一）腹の赤い小鳥。〔ツグミ科〕（二）魚のウグイの異称。〔産卵期に腹が赤くなる〕（三）イモリの俗称。〔かぞえ方 一羽〕（二）は一尾・一匹。（三）は一匹〕

あかびかり③【（垢光）】〔＋ る（自サ）〔着物などが〕垢や手ずれで光って見えること。〔一のする袖口クチ〕

あかぶさ①【赤房】〔すもうで〕土俵の上方から吊ツり下げた屋根の南東部から垂らした赤い房。もと〔赤柱③〕の有った位置。⇨青房・白房・黒房〔かぞえ方 一本〕

あかふだ①【赤札】（一）特価品や見切り品（につける値札）。〔売り済みの札。〕

あかぶどうしゅ④〔ダイ〕【赤（葡萄）酒】〔濃い赤色をした葡萄酒△赤ブドウを果皮と共につぶして（白ブドウに赤ブドウの果皮を加えて）作る。〔赤ワイン〕とも。〔かぞえ方 小売の単位は一本〕

アガペー①〔ギ agapē〕〔キリスト教的な〕神の愛。〔アガペ①〕とも。↔エロス

アカペラ②〔イ a cappella＝礼拝堂風に〕無伴奏の合唱（曲）。

染みて、不潔感になる。〔垢とみたシャツ〕

あかしんごう③【赤信号】↔青信号 （一）交通上の危険や停止を示す、赤色の信号。（二）危険や危機的状態の△しるし（知らせ）。〔△会社存続（水不足）の一がつく〕

あかしんぶん③【赤新聞】〔もと、薄赤色の用紙を使ったことから〕興味本位の暴露記事を主とする、低俗な新聞。

あかす①【明かす】（他五）（一）それまで隠していた事を相手に知らせる。〔△名前（手の内）を一／秘密を一〕（二）相手の知らない自分に関することなどを、間違いなくそうだと説明する。〔身の潔白を一〔＝証明する〕〕（三）通常とは異なる状況で（眠ることなく）夜を過ごして、朝を迎える。〔△飲んで（友と語らって）夜を一／一道に迷い、山中で一夜を明かした〕⇨鼻

あか・す②【飽かす】（他五）飽きさせる。〔飽かせる③（下一）とも。〔一時間は人を飽かさない／しゃべる〕〔△金カネ（時間・暇）に飽かして〕普通の人にはそれだけの余裕が持てないお金（時間・暇）をふんだんに使って。〕

あかず②③①【飽かず】（副）（一）〔飽きることなく〕の意のやや古風な表現。〔一〔＝じっと〕眺める〕（二）〔期待に反して〕不満が残る様子〕の意のやや古風な表現。〔なお一思う〕

あかずの①【開かずの】（連体）閉ざされたままの。〔一間マ〔＝開いたことが無い部屋〕／〔＝一度遮断機が下りて閉まるとなかなか開かない〕踏切キリ〕〔表記 「明かずの」とも書く。〕

あかせん①【赤線】（一）赤い色の線。（二）↔赤線地帯⑤〔営業許可を得た売春目的の特殊飲食店が集まっていた地域。九五七年以降廃止された。〕

あかだし①【赤だし】〔魚のあら汁で赤みそを溶かし、魚肉を入れるのが本来の調理法。また、広義では、八丁チョウみそを用いたものを含めることもある〕

あかちゃ・ける④【赤茶ける】（自下一）〔日に焼けたりして〕くすんだ茶色になる。〔「赤茶けた畳」〔強調形は「赤っ茶ける⑤」〕〕

あかちゃん①【赤ちゃん】〔「赤ん坊」の親しみを込めた呼称。〕

あかちょうちん③【赤（提）灯】〔目につきやすいように店頭に赤い提灯をぶら下げることから〕〔居酒屋〕の俗称。あかぢょうちん。

あかしんご——アカペラ

あかチン①【赤チン】〔「チン」はヨードチンキの意〕マーキュロクロムの水溶液の俗称。〔ヨードチンキとは化学的組成が全く異なる〕

あかつき①【暁】（一）〔明時トキ（一）の意〕（二）〔「夜があけるかどうかのころ」の意の古風な表現。〕（三）〔そうなる保証はないが）将来ある事が実現した、その時。〔「石油にかわるエネルギー源が実用化された一には、人間の生活は大きく変わるだろう」〕

—やみ④【一闇】明け方近くになっても月が出ておらず、あたりが暗いこと。〔陰暦十四日ごろまで〕

あがったり④【上がったり】〔あがる＝は、だめになる意〕事業がうまくいかず、どうしようも無い状態。〔商売一だ〕

あかつち①【赤土】赤茶色で、粘り気のある土。〔鉄分を多く含む〕

アカデミー②③〔フ academie〕（一）〔欧米諸国で〕学問・芸術を総合的に指導する立場にある、権威の有る機関。〔訳語は△翰林リン院・学士院〕（二）〔権威の有る大学・研究所の称。〔**—しょう**[4]【—賞】アメリカで映画・映画人に与えられる賞の中で、最も権威の有るもの。一九二七年創設。〕

アカデミズム④〔academism〕官学における講壇的な学風や芸術活動における伝統的・高踏的な作風。

アカデミック④〔フ academique〕ものの見方や言動などが、△学問的（学究的）な様子だ。〔非実用的というニュアンスを込めて用いることもある〕〔一な立場から作勢分析〕

—ハラスメント⑧〔和製英語 ↑academic＋harassment〕大学や研究機関で、指導的な立場にある人が学生や所員に対し、権力を悪用して（性的な）嫌がらせや差別的な扱いなどをすること。アカハラ。

あかてん①【赤点】〔「落第点」の俗称。〔赤字で書くところから〕

あかでんしゃ③【赤電車】〔路面電車の〕終電車。方向標識に赤い電灯をつける。略して「赤電」とも。〔その一つ前は「青電車」〕。バスについても「赤バス・青バス」と言う〕

あかとんぼ③【赤とんぼ】小形で赤いトンボの総称。夏から初秋にかけて群れをなして飛ぶ。アキアカネは代表的な種。

あかな・う③[ナオ]（他五）〔「なう」は接辞〕■〔買う〕意のやや古風な表現。〔残りのお金で書籍を一ことができた〕■〔贖う〕相応の代償を払って、△罪や失敗を償う〔本来の望ましい状態を獲得する〕こと。△命（血）で一〕〔名 贖い①〕

あかぬ・ける④【（垢抜ける）】（自下一）〔言動・人に接する態度や髪型・服装などが〕都会風に洗練されている。〔名 垢抜け①〕〔一した女性〕

あかね①【茜】〔赤根の意〕山野に生える多年生のつる草。根から、黒みを帯びた赤い染料をとる。また、薬用。〔アカネ科〕〔一色①〕〔かぞえ方 一本〕

あかのまんま④【赤の飯】〔赤飯パンの意〕植物のイヌタデの異称。〔あかまんま③〕とも。〔つまみが赤飯に似ている〕

あかはじ①【赤恥】〔「恥」の強調表現〕〔人前でかき耐えがたい屈辱感にさいなまれる恥。あかっぱじ①。〔一をかく〕

あかはた①【赤旗】（一）〔紅白二組に分かれた〕赤組の旗。〔甚は、平氏の旗〕（二）危険・停止信号の赤い旗。（三）共産党・労働組合などの旗。〔（二）の対義語は、白旗タク〕

あかはだ①【赤肌・赤（膚）】皮のむけた、赤い肌。〔一の山〔一木や草が全くない山〕〕

あかはだか③【赤裸】（一）身に衣類（に類するもの）を何もつていない状態。（二）鳥や獣が、毛を全部むしられた状態。

あかばな①【赤鼻】〔酒飲みや病気の人の〕一般の人に比べて赤く見える鼻。〔軽い侮蔑ベツを含意して用いられることがある〕〔ざくろばな とも。〕

アカハラ①〔ハラスメント〕⇨アカデミック

あかはら①【赤腹】（一）腹の赤い小鳥。〔ツグミ科〕（二）魚のウグイの異称。〔産卵期に腹が赤くなる〕（三）イモリの俗称。〔かぞえ方 一羽〕（二）は一尾・一匹。（三）は一匹〕

あかびかり③【（垢光）】〔＋ る（自サ）〔着物などが〕垢や手ずれで光って見えること。〔一のする袖口クチ〕

あかぶさ①【赤房】〔すもうで〕土俵の上方から吊ツり下げた屋根の南東部から垂らした赤い房。もと〔赤柱③〕の有った位置。⇨青房・白房・黒房〔かぞえ方 一本〕

あかふだ①【赤札】（一）特価品や見切り品（につける値札）。〔売り済みの札。〕

あかぶどうしゅ④〔ダイ〕【赤（葡萄）酒】〔濃い赤色をした葡萄酒△赤ブドウを果皮と共につぶして（白ブドウに赤ブドウの果皮を加えて）作る。〔赤ワイン〕とも。〔かぞえ方 小売の単位は一本〕

アガペー①〔ギ agapē〕〔キリスト教的な〕神の愛。〔アガペ①〕とも。↔エロス

アカペラ②〔イ a cappella＝礼拝堂風に〕無伴奏の合唱（曲）。

力の者に暴力をふるう形容。（b）さほど力を用いないで容易に出来る形容〕〔表記 「赤（行）囊」〔郵便局で〕書留などの重要な郵便物を搬送するのに用いた赤色の袋。〔今は「赤郵袋③」と言う〕〔かぞえ方 一袋〕

あかざ①【藜】畑・荒れ地に自生する一年草。若葉は食用、茎は つえにする。〔アカザ科〕〔一の羹ノウ〔粗末な食事〕〕〔かぞえ方 一本〕

あかざとう③【赤砂糖】十分に精製しないまま、赤茶色の砂糖。⇨黒砂糖・白砂糖

あかさび①【赤（錆）】鉄などに生じる、赤色の錆。〔一色①〕〔動 赤さびる④〔自上一〕〕

あかし①④【灯】〔「灯明ミョウ」〕

あかし①④【証（し）】（一）証拠。証明。〔福音イワクの一をする／友情の一として〕（二）後ろ暗くないことの証明。〔一を示す／身の一を立てる〕

あかし①【明】〔石〕〔↑あかしちぢみ④〕女性が夏に着る、ちぢみの絹織物。⇨黒砂糖・白砂糖

あかじ①【赤地】（一）織物の地ジの赤いもの。（二）赤い地色。

あかじ①【赤字】（一）収入よりも支出の方が多いこと。また、その数値を示す赤で書いた数字。〔一になる／一をを出す／解消する・埋める〕〔一が・ふくらむ／一に悩む／一財政④〕⇨黒字（二）校正で誤り一〕〔赤色で記すところから〕

こうさい④【一公債】〔前者を国債、後者を地方債という〕国や地方公共団体が赤字を補うために発行する公債。

アカシア①〔アニモザ・イラビアゴムノキなど、種類が多い。〔アメ科〕〔街路樹とするハリエンジュの俗称。〔一の花の咲くころ〕〔かぞえ方 一本〕〕

あかしお①③【赤潮】海面の一部が赤（に近い）色に見える現象。〔プランクトンの異常繁殖によって生じ、魚介類に大きな被害を与える〕⇨青潮

あかしくらす⑤⑥【明かし暮らす】（自他五）同じような生活△様式（態度）で日びを過ごす。

あかじそ①【赤紫（蘇）】シソの一種。葉の色は赤紫。夏から秋にかけて赤紫色の花をつける。葉を梅干やショウガの色づけなどに使う。〔かぞえ方 一本〕

あかじ・みる④【（垢染みる）】（自上一）衣服などに垢が

あかぬ・ける④【（垢抜ける）】（自下一）〔言動・人に接する態度や髪型・服装などが〕都会風に洗練されている。〔名 垢抜け①〕〔一した女性〕

あかね①【茜】〔赤根の意〕山野に生える多年生のつる草。根から、黒みを帯びた赤い染料をとる。また、薬用。〔アカネ科〕〔一色①〕〔かぞえ方 一本〕

あかのまんま④【赤の飯】〔赤飯パンの意〕植物のイヌタデの異称。〔あかまんま③〕とも。〔つまみが赤飯に似ている〕

あかはじ①【赤恥】〔「恥」の強調表現〕〔人前でかき耐えがたい屈辱感にさいなまれる恥。あかっぱじ①。〔一をかく〕

あかはた①【赤旗】（一）〔紅白二組に分かれた〕赤組の旗。〔甚は、平氏の旗〕（二）危険・停止信号の赤い旗。（三）共産党・労働組合などの旗。〔（二）の対義語は、白旗タク〕

あかはだ①【赤肌・赤（膚）】皮のむけた、赤い肌。〔一の山〔一木や草が全くない山〕〕

あかはだか③【赤裸】（一）身に衣類（に類するもの）を何もつていない状態。（二）鳥や獣が、毛を全部むしられた状態。

あかばな①【赤鼻】〔酒飲みや病気の人の〕一般の人に比べて赤く見える鼻。〔軽い侮蔑ベツを含意して用いられることがある〕〔ざくろばな とも。〕

アカハラ①〔ハラスメント〕⇨アカデミック

あかはら①【赤腹】（一）腹の赤い小鳥。〔ツグミ科〕（二）魚のウグイの異称。〔産卵期に腹が赤くなる〕（三）イモリの俗称。〔かぞえ方 一羽〕（二）は一尾・一匹。（三）は一匹〕

あかびかり③【（垢光）】〔＋ る（自サ）〔着物などが〕垢や手ずれで光って見えること。〔一のする袖口クチ〕

あかぶさ①【赤房】〔すもうで〕土俵の上方から吊ツり下げた屋根の南東部から垂らした赤い房。もと〔赤柱③〕の有った位置。⇨青房・白房・黒房〔かぞえ方 一本〕

あかふだ①【赤札】（一）特価品や見切り品（につける値札）。〔売り済みの札。〕

あかぶどうしゅ④〔ダイ〕【赤（葡萄）酒】〔濃い赤色をした葡萄酒△赤ブドウを果皮と共につぶして（白ブドウに赤ブドウの果皮を加えて）作る。〔赤ワイン〕とも。〔かぞえ方 小売の単位は一本〕

アガペー①〔ギ agapē〕〔キリスト教的な〕神の愛。〔アガペ①〕とも。↔エロス

アカペラ②〔イ a cappella＝礼拝堂風に〕無伴奏の合唱（曲）。

** * は重要語，⓪ ①… はアクセント記号，品詞の指示の無いものは名詞および いわゆる連語。